

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381173

研究課題名(和文)子ども達に苦手意識を抱かせない図画工作・美術における教育コンテンツの研究・開発

研究課題名(英文) A Study of The Educational Contents to Eliminate The Weak Awareness of Art Expression of The student

研究代表者

降旗 孝 (FURIHATA, Takashi)

山形大学・地域教育文化学部・教授

研究者番号：20302284

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、子ども達に図画工作・美術への苦手意識をつくらない教育内容を探求し、その具体的な教育コンテンツを開発することにある。

研究成果としては、平成26年度からの実態調査の実施とその結果の分析から、苦手意識を生み出す原因を追究し、苦手意識を解消させる要素を明らかにしてきた。その要素をもとに苦手意識を減少させる試みを教育内容の教育コンテンツとして、実際の大学講義に取り入れて検証してきた。

講義前と講義後に調査し、大学生の苦手意識の変容とその理由とを考察することで、小学校教員養成課程における図画工作・美術への苦手意識をつくらない効果的な教育コンテンツのいくつかを明らかにすることができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to explore the elimination of the weak awareness education of art expressin of the student, it is to clarify the educational content in primary school teacher training course. In 2013 I conducted a survey about the arts and crafts education and art education, has been analyzing the results. It revealed the elements of the order to eliminate the children of the weak awareness from there. The element has been validation studies incorporated into lectures. To investigate consider the transformation of the weak awareness of college students, I was able to clarify some of the valid educational content.

研究分野：教科教育学

キーワード：図画工作教育 美術教育 美術に対する苦手意識 教員免許状更新講習 小学校教員養成課程 造形美術教育 教育コンテンツ 教育内容

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本の未来と教育の役割・重要性

これからの日本の明るい未来にとって「教育」が担う使命と役割は、とても大きく重要であると考えている。それは、これからの日本を創り上げていくのは、他ならぬ今から育ち社会へと巣立っていく子どもたちであるからである。

いかに厳しい経済状況と社会背景であろうと現在の子どもたちの健やかな成長を強く願うと共に、未来の日本の姿をも視野に入れながら、これからの日本のあるべき姿と目指すべき方向性へ導いていくのが「教育」の大きな役割であり重要な使命があると考えます。

(2) 学校教育現場の関心事と問題点

現在の教育界では、学力低下問題をきっかけに全国学力調査が行われるようになり、学校教育現場における重要かつ最大の関心事が、その調査結果に反映される学力の数的な量の度合いになってしまっている。それ故に、その対象教科である国語・算数・数学・理科等が、より重視されるようになってきている。教科の格差が生まれている。

『学力』とは、単純に毎年実施されている全国学力調査や国際学力調査等のペーパーテスト等の結果で計られるものだけではないはずである。

ペーパーテストなどの目に見えた結果のみに一喜一憂するのではなく、表に現れない目に見えない学力についても教育にとっては、無視できない重要な要素であることを改めて確認すべきである。

(3) 目に見えない学力への課題

これからの社会を考えた時に、児童・生徒の目に見えない力、生涯にわたって生きて働く力として豊かな人間性の育成が重要と考える。

全国学力調査や学力テスト等に代表されるような目に見える学力ばかりではなく、知・情・意のバランスのとれた豊かな人間性、「創造性」や「発想力」「感性」など、目に見えぬ「生きた力」としての学力も益々必要になると考える。

これらの資質・能力も教育において課せられた重要な使命であると考えている。

(4) 図画工作・美術の軽視問題

目に見えない学力育成に貢献しうる教科の一つとして、表現教科である図画工作・美術の教育に着目し、あえて目を向けるものである

しかしながら、社会一般的には図画工作や美術というものは、国語・算数などと比べるとあまり重視されず、軽視されている状況がある。

さらに、図画工作や美術では、児童・生徒がうまく上手な作品を完成させると高く評価され、そのための作品作りを目標としている教科というイメージがとても強く、目指すべき教育ではない。

さらに、それを裏付けるような実態や経験等が

あるのか、図画工作・美術に対して苦手意識を抱いてコンプレックスを持っている子供や大人は少なくない。これは無視できない問題である。

(5) 図工・美術に対する苦手意識の存在

大学においても美術の専門教育を受けてきていない小学校教員を目指している学校教員養成課程の一般の大学生たち、そして小学校教育現場のベテラン教師たちでさえも、図画工作・美術への苦手意識を抱いていることがわかってきている。

本来、義務教育段階における図画工作科及び美術科の教育は、上手に作品を描き作ることのできる一部の得意な児童や生徒のためだけのものではなく、さらに一部の芸術家やアーティストを育成するためにあるものでもない。

全ての子ども達にとって、楽しく有意義な教育活動であるべきである。日本の未来にとって教育が担う使命と役割が重要であるからこそ、苦手意識が生まれにくい教育の実現が求められる。

2. 研究の目的

本研究では、図画工作・美術に対して苦手意識が生まれる原因と理由とを探索し、その苦手意識を根本から少しでも解消するような教育内容とそのため有効な教育用コンテンツを研究していく。

そして、最終的には苦手意識を抱かせない教育コンテンツを具体的に開発することを目的とする。

3. 研究の方法

研究方法については、以下のような段階を踏まえて行ってきた。

(1) 実態調査の実施

現在の実状を把握するために小学生から大学生までの児童・生徒を対象にして、大規模な実態調査を実施して、図画工作・美術に対する意欲と苦手意識の状況を明らかにする。

(2) 調査結果から苦手意識の原因を探索

実態調査の結果の考察から、子ども達に苦手意識を抱かせる理由と原因について考察する。ここから、なぜ子ども達の中に図工・美術への苦手意識が生まれるのか原因と理由とを究明する。

(3) 苦手意識をつくらせない要素の探索

苦手意識をつくりだす理由の考察から、児童・生徒に図画工作・美術に対する苦手意識を抱かせつくらせない要素を明らかにする。

(4) 教育コンテンツの開発

苦手意識をつくらせない要素から具体的な教育コンテンツを開発し、実際の授業の中で検証し教育的な効果を探索する。そのために授業前と授業後に調査を行い、生徒の苦手意識の変容と共に効果のあった教育的コンテンツを明らかにしていく。

4. 研究成果

(1) 児童・生徒の図画工作・美術の実態

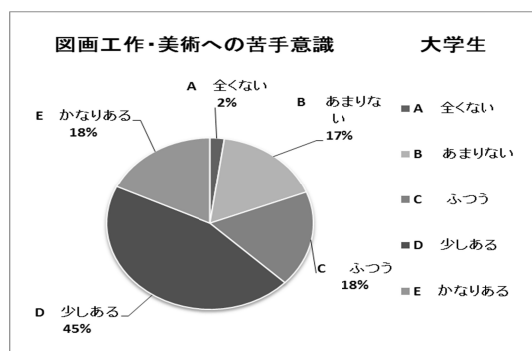
本研究の成果としては、第1年次の平成26年度に小学生から中学生・高校生そして大学生を対象に本格的な実態調査を実施して、図画工作・美術に対する好き嫌いの意識の確認と共に、学習に対する〔意欲〕と図工・美術への〔苦手意識〕の実態ともいえる現状について、あらためて実際に明らかにすることができた。

そこでは、図画工作と美術については、子ども達は嫌いというよりも好きな印象を持ち学習に対しても意欲的に取り組んでいることがわかった。

(2) 児童・生徒の苦手意識を再確認

この教科の印象が好意的な傾向があったわりには、かなりの〔苦手意識〕の存在があることもあらためて確認することができた。これは、発達段階に応じて学年が上がるにしたがい、徐々に増加していることもわかった。

特に、大学生それも一般の小学校教員養成課程の大学生にいたっては、以下のグラフ結果のように予想以上の約6割もの学生に大なり小なり図画工作・美術への〔苦手意識〕があったのである。



この結果については、大きな驚きを覚えると共に、我が国の造形美術教育にとっても緊急を要する重要課題とするに匹敵すると考えた。

(3) 小学校教員における苦手意識の問題点

ごく一般の公立小学校の教員は、学級担任として担当するクラスの国語・算数などと共に図画工作をも教える義務がある。

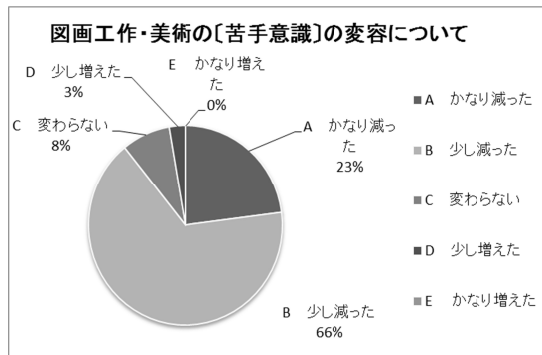
教員そのものが苦手意識を抱いたまま教壇に立ってしまうと本来造形美術表現活動が内包している重要な要素である楽しさや面白さを目の前の子供たちに教えることが難しいばかりでなく、教員自身が抱いてしまっている苦手意識を子供たちにも同じように植え付けてしまう危険性を孕んでいるからである。

故に実態調査結果から、あらためて本研究の必要性とその意義を再確認することができた。

(4) 苦手意識の原因追求と解消の試み

平成26年度第1年次の研究においては、前述の実態調査の実施と共にその調査結果を分析し、苦手意識が生まれる原因とその理由とを考察し

てきた。さらに、大学生の苦手意識を少しでも解消すべく講義において、苦手意識解消の試みをスタートさせた。講義前と講義終了後に調査を実施し、その変容を調べた。



この試みの結果については、上記のグラフ結果のように全体の89%の学生の苦手意識を減らすことができた。教育的効果によって、大幅に苦手意識を減少させることができた。

(5) 苦手意識をつくらない要素と教育コンテンツの開発

平成27年度の第2年次の研究では、前年の苦手意識がつけられる原因と理由の考察から〔苦手意識〕をつくらない要素のいくつかを明らかにすることができた。

さらに、大学の講義においても実証研究を継続して行い、実際に苦手意識を減少させる効果を発揮させることができた。そこから教育コンテンツのいくつかを明らかにすることができた。

(6) 教育コンテンツの検証と開発

平成28年度の第3年次の研究では、2年次までに明らかになってきた教育コンテンツを実際の授業で試みながら検証することができた。

その過程で、苦手意識をつくらない要素を元にした以下のような具体的な教育コンテンツのいくつかを開発することができた。

- 図工・美術へのふりかえりと教育観の確認
- 図工・美術で目指すべき教育のねらい
- 表現の楽しさを味わわせる表現活動
- 苦手意識を克服させる絵画表現活動
- 自分らしさを目指す表現活動体験
- 豊かな表現を可能にする知識・技能の内容
- お互いに表現を認め合える鑑賞活動の位置づけ
- 苦手意識を抱かせない誉め言葉・子どもたちへの言葉がけ

この教育コンテンツについては、研究期間が終了した現在でも継続検証し、より教育的効果が高いものに改善させている。

また、毎年研究代表者は学校教育現場のベテラン教師を対象にした教員免許状更新講習を担当している。その講習においても重要な内容として位置づけ、この研究成果を実際に学校教育に還元することを試みている。

(7) 今後の課題

効果的な教育コンテンツのいくつかが明らかになることで、それをいかにどのように児童・生徒に与えるのかという具体的な教育の方法面が、次なる研究課題として浮上してきた。

この研究課題については、今回新たに採択された平成29年度～平成31年度の基盤研究(C)における研究にて、取り組んでいきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

1. 降旗 孝、「図画工作・美術への苦手意識をつくらない教育内容 小学校教員養成課程における教育コンテンツ」- 山形大学紀要(教育科学) 査読有、第16巻第4号、2017、pp.275-288

2. 降旗 孝、「図画工作・美術への〔苦手意識〕の実態と解消のための要素 - 造形美術教育の教育コンテンツ開発に向けて - 」- 大学美術教育学会誌、査読有、『美術教育学研究』第48号、2016、pp.369-376

3. 降旗 孝、「図画工作・美術への〔苦手意識〕解消の試みと成果 - 目指すべき造形美術教育を実現するために - 」- 山形大学紀要(教育科学) 査読有、第16巻第3号、2016、pp.21-33

4. 降旗 孝、荒垣 靖、高嶋裕也、「児童・生徒の意欲を引き出す表現・鑑賞活動の研究 第3年次」- 平成27年度大学と附属校園の共同研究報告書、山形大学、2016、pp.42-53

5. 降旗 孝、「図画工作科・美術科における教育コンテンツの研究 - 造形美術教育をより良くするための第3の視点 - 」- 大学美術教育学会誌、査読有、『美術教育学研究』第47号、2015、pp.319-326

6. 降旗 孝、荒垣 靖、高嶋裕也、「児童・生徒の意欲を引き出す表現・鑑賞活動の研究 第2年次」- 平成26年度大学と附属校園の共同研究報告書、査読無、山形大学、2015、pp.30-37

7. 降旗 孝、「図画工作・美術への〔苦手意識〕の実態と考察 - 児童・生徒・大学生への実態調査結果から - 」- 山形大学紀要(教育科学) 査読有、第16巻第2号、2015、pp.109-123

〔学会発表〕(計4件)

1. 降旗 孝、「図画工作・美術への苦手意識をつくらない教育の研究 - 小学校教員養成課程における教育コンテンツ - 」- 第55回大学美術教育学会 北海道大会、於 北海道教育大学 札幌校、北海道・札幌市、2016年9月25日、発表概要集 p.073

2. 降旗 孝、「図画工作・美術への〔苦手意識〕の研究 - 苦手意識とそれを減少させるための要素 - 」- 第54回大学美術教育学会 横浜大会、於 横浜国立大学、神奈川県・横浜市、2015年9月20日、発表概要集 p.028

3. 降旗 孝、「図画工作・美術への〔苦手意識〕の研究 - 苦手意識の現状とその解消に向けて - 」- 第37回美術科教育学会 上越大会 於 上越教育大学、新潟県・上越市、2015年3月28日、発表概要集 p.31

4. 降旗 孝、「図画工作・美術科への〔苦手意識〕の研究 - 造形美術教育を質的に改善するために - 」- 第53回大学美術教育学会 福井大会 於 福井大学、福井県・福井市、2014年10月4日、発表概要集 p.030

〔図書〕(計1件)

1. 降旗 孝、「子ども達に〔苦手意識〕を抱かせない図画工作・美術における教育コンテンツの研究・開発」- 平成26年度～平成28年度科学研究費補助金 基盤研究(C)研究成果報告書、2017年3月、全102頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

降旗 孝 (FURIHATA, Takashi)
山形大学・地域教育文化学部・教授
研究者番号：20302284

(2) 研究協力者

荒垣 靖 (ARAGAKI, Yasushi)
山形大学附属小学校・教諭
高嶋裕也 (TAKASHIMA, YUYA)
山形大学附属中学校・教諭
木村聡子 (KIMURA, Satoko)
東根市立第一中学校・教諭
武田 亮 (TAKEDA, Ryo)
山形県立南陽高等学校・教諭
布施弘好 (HUSE, Hiroyoshi)
山形県立山形東高等学校・教諭